

PETRONAS SYNTIUM TEAM

PETRONAS SYNTIUM TEAM REPORT

スーパー耐久シリーズ 2008
第 1 戦「鈴鹿スーパー耐久 500km」
2008 年 4 月 26-27 日

■予選:4 月 26 日 天候:晴れ 気温 23°C(午後 1 時現在)

昨シーズンのデビューレースから早や 1 年、ペトロナスカラーの BMW Z4 COUPE が再びサーキットに帰ってきた。4 月 26 日、スーパー耐久シリーズ 2008 の第 1 戦が三重県・鈴鹿サーキットで開幕。シーズン 2 年目を迎える No.50 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE が予選でポールポジションを獲得、チームとして幸先よいスタートを切った。

今シーズン、PETRONAS SYNTIUM TEAM では 50 号車に加え、さらにもう 1 台を投入。2 台体制でシリーズを戦う。開幕の鈴鹿ラウンドでは、昨シーズン同様マレーシア人のファリーク・ハイルマンと柳田真孝の両名が 50 号車をドライブ。新たに投入した 28 号車は、SUPER GT シリーズに参戦中の片岡龍也、S 耐初のフル参戦となる吉田広樹がドライブすることとなった。

春の陽気に包まれた鈴鹿サーキット。予選日ながら開幕戦ということもあり、多くの観客が訪れ、予選前のピットウォークでは、チームドライバーはもちろん、ペトロナスカラーのマシンを撮影する様子が見られた。

午後 12 時 50 分、A ドライバーによる 15 分の予選がスタート。シーズン 2 年目のハイルマンが開始 10 分後にコースインし、2 分 11 秒 180 のタイムでトップに躍り出る。だがこの直後、他車がハイルマンのタイムを上回り、50 号車は 2 番手となる。一方、28 号車のアタッカーは片岡。まず 2 分 13 秒 556 をマーク、さらにファイナルアタックで 2 分 10 秒 108 へとタイムアップしたが、このタイムはアタック時間を経過した時点のものとは判定され、無効に。惜しくも 3 番手にとどまった。

B ドライバーによる予選は午後 1 時 35 分にスタート。50 号車の柳田はタイミングを見計らい、着実にタイムアップ。コースレコードを連続で更新する走りでも 2 分 09 秒 785 をマークした。唯一 2 分 10 秒を切る好タイムを叩き出した結果、A、B 両選手の合算タイムで決勝グリッドが決定するスーパー耐久の規定により、50 号車は開幕戦でのポールポジション獲得に成功。また、28 号車は、吉田が S 耐での初アタックを 2 分 11 秒 731 で終え、2 列目、3 位から決勝レースを迎えることとなった。

■決勝:4 月 27 日 天候:晴れ 気温 20°C(午後 1 時 30 分現在)

レース日和となった決勝日。鈴鹿サーキットには 1 万 5000 人を超える観客が訪れ、前日同様、決勝前のピットウォークが賑やかに行われた。

午後 1 時を過ぎ、ダミーグリッドに並んだ 34 台のマシン。ポールポジションには、No.50 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE がつき、柳田がスタートドライバーとしてコクピットに収まる。そしてその後方、3 番手の位置には No.28 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE。こちらは片岡がスタートドライバーを担当することとなった。

午後 1 時 30 分、セーフティカーに先導され、87 周にわたるレースがスタート。クリアスタートを切ったポールの 50 号車の柳田は、みるみるうちに後続との差を築き、安定したペースでレースを牽引、3 周目には、レースのファステストラップとなる 2'11.832 をマークするなど、順調な滑り出しを見せた。

Team Media Contact

Gen Suzuki - gen@teampetronas.com

Team's website: www.teampetronas.com

Petronas website: www.petmos.com.my

PETRONAS SYNTIUM TEAM

だが、20周目の1コーナーを過ぎたとき、突然のスローダウン！柳田はマシンを労わるようにペースを落とし、コースを周回。その後、マシンを頭からピットへ滑らせた。速やかに作業するスタッフによって、すぐデフトラブルの処置が始まったのだが、予想以上に時間を要することになる。結果、マシンが修復を終えてコースへ戻ろうとしたときには、「時すでに遅し」の状態。開幕戦でリザルトを残すことができなかった。

一方の28号車は、スタート直後から2番手のマシンをハードプッシュ。5周目のシケインで見事なパッシングを披露、2位へとポジションアップした。その後、トラブルで戦列を去った50号車に変わり、トップの座を死守。29周終了時点で1回目のピットインを行い、片岡から吉田へとスイッチした。

ピットでは、緊張の面持ちで片岡を待っていた吉田。だが、ドライブし始めると落ち着いた走り安定したラップタイムを刻み、片岡から引き継いだ後続とのタイム差を見事守り切ることに成功。59周目、再び片岡へとスイッチするピットインまで、無事に大役を果たした。

2度目のドライブとなった片岡。後続車とのタイム差を確認しつつ、さらにマシン、タイヤを労わるドライブで残る周回を消化。ピットレーンでチーム関係者が待ち受ける中、見事トップでチェッカーをくぐり抜け、PETRONAS SYNTIUM TEAMにS耐久勝利をもたらした。

●鈴木哲夫監督

50号車はデフトラブルでした。かなりシビアな場所だったので作業に時間を要しましたが、代わりに2台体制で挑んだぶん、結果を残すことができ良かったです。28号車に関してはすべて思うようなレース運びができましたし、戦闘力は昨年よりも向上しているので、次のレースでは2台揃っていい結果を残したいと思います。

●No.50 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE

F・ハイルマン

オフシーズンに決して十分な準備ができたわけではなかったのですが、鈴鹿での練習走行や予選でいい手ごたえを得られることができたことは、自分にとってとても大きな喜びになっています。ほっとしました。ベストを尽くすことに集中し、パフォーマンスとしても去年よりも自信をもって走れたことは良かったと思います。

柳田真孝

決勝では、特別ハードにプッシュすることもなく、ペースを自分でコントロールしながら周回を重ねていきました。先の展開を考え、クルマを労わって走っていたし、また後続車とのタイム差もうまくコントロールできていました。しかし残念ながら、15周をすぎてデフオイルの焼けたにおいがはじめ、20周目の1コーナー出口でついにクルマから大きな音がしたので、ペースを落としてピットに戻りました。その一方で、今季は2台体制になり、僕たちに代わって28号車が優勝してくれたことは、チームにとっていい結果が残せてよかったと思います。また、若手の吉田選手もよく落ち着いていいレースをしてくれました。

●No.28 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE

片岡龍也

予選で出ているオーバーステアのトラブルが序盤から出てしまい、つねにクルマをコントロールしなきゃいけない状態だったので、前の2台を追うのではなく、タイヤのことも考えて“燃費労わり作戦”に切り替えて走りました。吉田に代わってからはタイムがバラつくかと思いきや、彼が安定した状態で走ってくれたし、マージンも増やして帰ってきてくれたのはうれしい誤算でした。ルーティンワークは作戦通りできましたが、2度目のステントのときは、50号車のトラブルを踏まえて駆動系を労わりながら、マージンもあったのでクルージング状態で周回を重ねました。去年、50号車ががんばってやってきたものをこ

Team Media Contact

Gen Suzuki - gen@teampetronas.com

Team's website: www.teampetronas.com

Petronas website: www.petmos.com.my

PETRONAS SYNTIUM TEAM

ちらが引き継ぐように今日のレースで勝ってしまったのですが、これも2台体制の強みが発揮された結果だと思います。

吉田広樹

決勝でのクルマはすごく乗りやすく、また後続との差もあったので、そのままミスなく走ることを心がけました。今回、立派な体制のなか迎えた初めてのレースで、片岡さんがしっかりマージンを作ってくれて、交代できたので助かりました。柳田さんたちのクルマが前にいたら、追う立場だったのでもう少し緊張せずに走れたかもしれませんが、結果的にはトップで交代することになったので、相当緊張しました。今日の勝利はもちろんうれしいですが、これも去年50号車が多くのデータを取ってくれていたからこそ。50号車の努力があったから、僕たちにラッキーな勝利が巡ってきたのだと思います。次のレースでは、ぜひワン・ツー・フィニッシュを目指したいです。

次回 第二戦、仙台ハイランド
5月17-18日

Team Media Contact

Gen Suzuki - gen@teampetronas.com

Team's website: www.teampetronas.com

Petronas website: www.petmos.com.my